2004年度 修了

中学校における不登校傾向の別室登校生徒への対応についての一考察
～学生による「心の教室相談員」として関わった事例を通じて～

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域

本研究は、学校現場における不登校・登校拒否問題に対する取り組みの一つである、「心の教室相談員」活動を通じて関わった、不登校傾向の別室登校生徒の事例を元に、対象生徒が抱える問題や発達課題について考察した上で、心の教室相談員であった筆者が対象生徒との関わりの中でどのような対応ができたのかについて考察した。

また、対象生徒との関わりが特に深かった教育相談担当教師が、生徒に対して果たした役割についても考察した上で、心の教室相談員であった筆者と教育相談担当教師との連携がどのようなものだったのかについて考察を試みた。その結果、対象生徒の抱える課題として、同年代の仲間とのコミュニケーションを取ることが苦手であり、仲間との関係を結ぶ中で自分の「居場所」を見つけることの難しさが明らかになった。そして、心の教室相談員は、思春期にあった対象生徒が親からの自立を果たし、友達関係を築いていく上での橋渡し役として機能していたと考えられた。さらに、対象生徒への援助をめぐっては、教師やその他の援助者との連携は欠かせないものであり、聞き取り調査からは心の教室相談員であった筆者に対して、教育相談担当教師を始めとする各援助者は肯定的な評価をしていることがわかった。

また、教育相談担当教師は「代理母親」的な存在であると考えられ、対象生徒が実の母親から代理母親的存在である教育相談担当教師への関係に進み、次のステップである友達関係へと移行するプロセスを心の教室相談員であった筆者が支えていたと考えられた。

その上で、今後の課題として再び不登校になってしまったA子への対応、学級担任への働きかけの必要性、コンサルテーションへの参加と場の必要性について論じた。